

組織の方向性について

(社)日本 ITF テコンドー協会 理事長 岸玄二

おはようございます。

協会としてコロナ禍後としては初めての大会を開催することになりました。

このような状況の中でご協力いただけるスタッフの皆様には大変感謝しております。

ありがとうございます。

賛否両論ある中で大会を開催するのは指導の現場で特に子供たちを指導させていただいて
いると、やる気の火がどんどん消えていってしまう様を目の当たりにします。

そういった中で大会の開催は必要と判断をし、今に至ります。

考え方として世界は変わってしまったということです。元には戻らないと考えた方が良い
ということです。その中で自分たちも変わる必要があるというだけの事です。

大会開催に際して必要な制限を設け、始めは厳しめではありますが、徐々に緩和していき
ます。

今回初めてという事で、心苦しいのですが遠方からお越しの方はお車での移動をお願いい
たしました。しかしながらスタッフ様の安全性に対してのご理解と同意が得られなければ
大会の開催は出来ません。何卒ご理解のほど、よろしく願います。

今後も大会を開催していきますが、我々がコロナ対策で最も重きを置いている部分はワク
チンでもなく薬でもなく信頼関係だという事を念頭に置いていただきたい。

自ら制限するところはしっかりと制限し、楽しむところはしっかりと楽しむ。今後もその
ようにやっていきたいと思えます。

さて本日も皆さんの心のあり方についてお話をさせていただきます。

先日ですがある大学生とお話をしまして、皆さんが楽しく談話をされる中で、真剣な
顔で何やら相談事を持ちかけられました。

詳細は覚えていないのですが、何やら塾の先生をしていて、生徒に対して憤りを感じる部
分があるような感じだったと記憶しております。

その中で彼が言ったことに『大事なことは尊重することですよね』という言葉がありまし
た。

正直すごいなあと思います。二十歳そこそこの方が尊重という言葉を使うんだなど。

それに対して考えない方は一生考えないと思います。それくらい普段使わない言葉です。

そこで話を進めてみたのですが、『では憤りを感じる方に対しても尊重しないと』という話

をした時に『そーなんですか?』という言葉が返ってきまして、それでは意味が無いねという話になりました。

皆さんは腹が立つ相手に対して、憤りを感じる相手に対して尊重出来ますか？
尊重するということは簡単に言いますと”あなたはそれでいいですよ”ということです。
しかしそれをすると自分の中にあるイライラなどは消えません。だからこそ難しいと思います。
通常ですと愚痴を言ったり運動をしたりして発散するところです。

ここで尊重することの意義について考えてみると、”あなたはそれでいいですよ”とすることは自分の中にある憤りに対して自分で解決する必要があります。もちろん前述の通り、愚痴や運動などで発散することも手段の一つですが、最も良いのが”自分が変わる”ことです。

”あなたはそれでいいですよ”と出来るから”自分が変わるから”という発想になります。
つまり変われる人であるか変われない人であるかということを決めるということです。

では変われるか変われないかという部分を考えますと、例えばあなたが粘土だったとして、ある器に入らなければならないとしましょう。その時に硬い粘土は頑張って形を変えながら入っていくことになります。また器にも大変な負荷がかかります。これを人間に戻すとどちらも痛い思いをすることです。

これが粘土ではなく水だったとしたらすんなりと形を変えて器のに収まります。

簡単に言いますと、自分が変われなければ物事が上手くいきませんよということです。

しかし腹が立つ相手を”あなたはそれでいいですよ”とするのは難しい話ですし、腹が立つ相手に対して自分がわざわざ変わらなければならないのは非常に難しいことです。

ここで必要になるのが”考え方”というものです。この”考え方”とは自分がどのように世界を、物事を見るのかを決めるものです。

私が武道を行う上で大切にしている考え方が3つあります。

その中でも一番大切にしているのが”人間とは何か”というものです。

皆さんならどのように答えますか？生き物ですでも正解です。

私は鏡だと思っています。人間とは人の形をした鏡だというのが私の一番大切な考え方です。

常にそのように見るわけでは無いのですが、自分にストレスがかかった時にはそのように見るようにしています。物事をそのまま見てしまっただけでは誰でも腹を立てることもあります。

そうならないように物事を置き換えて見るということです。

例えば朝起きて鏡で自分の顔を見た時にひどい寝癖が付いている、目ヤニが溜まっている、眠そうな顔をしているとして、それが嫌だから身なりを整えます。誰も鏡が悪いとして鏡を割りにいたり、もっと違った映し方をしると鏡に求めることはしないと思います。

鏡に置き換えてみることで自分が変わるという方向に向きやすくなります。それは映しだされた自分自身ということです。相手を否定するという事は自分を否定することと同じです。

相手越しにしか自分の姿は見てはきません。自分で見た自分など、自分のことを見たいように見ているのでどこが都合の良い自分になってしまいます。映しだされた自分を真摯に受けとめて、自分を変えていくことこそが人間としての成長だと思います。

最後に皆さんは鏡にどのように映しだされたいでしょうか？

当然ですがより良く映しだされたいと思います。あなたがより良い自分になることが出来れば、今笑顔で無い方も笑顔になると思います。

だから私はテコンドーで人を笑顔にしていきたいと思っています。

それが自分の人間としての成長になるからです。同然組織の成長にもなります。

私はこの武道を広く普及していきたいと思っています。

それが自分の人間としての挑戦であり組織としての挑戦です。

私自身も鏡ですので相手を笑顔にすることで自分も笑顔になれます。自分が自分がと言わずにまず相手のことを優先して、その結果として自分も笑顔になれる、そういう生き方を伝えていくためにテコンドーを教えています。

本日お時間をいただきお話をさせていただいたのは、世界が変わっていく中で協会としての活動を再開していくにあたり、今この組織のリーダーが何を考えているのかは知っておいて欲しいと思いお話をさせていただきました。

私からは以上です。ありがとうございました。

2021年11月20日
第13回全国新人戦にて